

前川たえこ（釋水鷗）さん講演会のお願い

# 花巡礼

題字：石川洋

## 前川たえこさんと交流しませんか？

### 【前川たえこさんのご紹介とご案内】

釋水鷗さんこと、前川たえこさんは、広島県生まれ。京都女子大学栄養生理研究室助手、中国新聞社、同話し方教室講師を経て、現在文筆家で浄土真宗本願寺派僧侶（呉市西教寺衆徒）です。大腸がん手術後、3度死線をさまよい、肺肝症候群で重度低酸素症で酸素を手放せません。離婚や愛する人の自死、そして自らの病など、さまざまな人生苦にあい、何度も死ぬことを考えられました。しかし、さまざま



な人との出会い、教えとの出遇いを通して、支えられ、救われて、今を力強く生きておられます。

また、広島仏教学院で学びを深められ、卒業後得度され僧侶になられました（法名釋水鷗<sup>しゃくすいしゅう</sup>）。前川さんは、今まで受けたご恩返しとして、同じような悩みを持っている人に少しでもお役に立てたら、全国の皆さんと交流できたらと、この花巡礼を思い立たれました。

この間、前川さんをずっと支え続けてこられたお母さまがアルツハイマーとされました。前川さんは、病気をものともせず自宅で介護を続けておられます。そして、お母さまへのご恩返しに、全国の花を見せてあげたいと思い立ち、全国講演を「花巡礼」と命名されました。

衆徒寺である呉市西教寺で出発式をし、北海道宮尾登美子文学館（夏ツバキ・沙羅）での講演を皮切りに全国で講演する傍ら皆さんと交流を深め、在家仏教徒沖縄志慶間小児科医院道場（ハイビスカス・仏桑華）のゴールを目指しておられます。前川さんの一世代のチャレンジです。どうぞ皆さんの応援、お力添えをよろしくお願いいたします。

岩崎智寧（広島仏教学院講師・西教寺衆徒）

### 【予定】

- 5月30日 広島県呉市西教寺蔵本通支坊で講演と出発式。
- 7月11日 北海道宮尾登美子文学館で講演。

【お問い合わせ・連絡先】前川たえこ 080-1918-0415

# 推薦します

## 宮尾登美子（作家・NHK大河ドラマ『篤姫』原作者）

大分以前、はからずもQEⅡに乗船したのが縁で知りあった私たちですが、彼女が命の瀬戸際に関わる大病をなされた方は夢にも思わぬほど、明るいわりとでした。のちに、4度の大手術を経、現在もなお片ときも酸素ボンベを手放さぬ状態なのを見、聞きして、そのさわやかさに驚嘆しました。私たちは彼女から生きることの勇気と信念をもらいたいもの、お互いに励まし合おうではありませんか。



## 花万朶真実一路の鈴ならし 石川洋（托鉢者・元京都一燈圓）



前川多恵子さんとの出会いは新しい。しかしその邂逅は、新鮮であり、宿縁のなつかしさを覚える。この度、老いたる母に導かれて、花巡礼に旅立たれる。

心美しき発願をお聞かせいただき、思わず掌を思わせ、こみ上げるものを禁じえなかった。この花巡礼の鈴の音には三つの音色がこめられているのではないかと受けとめさせていただいた。

一つの音色は、やさしさ故に傷つき、憂き節多き人生と、10数年に及ぶ病の苦しみから、病を素直に受け止めることによって、新たな生命を給わった「感謝と感動」の喜びの音色である。

二つ目のしづかなる音色は、10数年わが子を看病し、励ましつづけられたお母さんが、老いを重ねられ認知症のきざしを覚えられるようになった。だれでもが迎える老いの兆しである。多恵子さんは、この衰（お）いの進行はひきこもることにあることをしり、外に出、喜びを感じることに回復の転機があることをしった。更にその母から教えられたことは、90才近い年齢を重ねながら、赤子のような新鮮な生命に目覚め、希望をもって歩みだしている輝きにふれたことであった。この母に導かれ、一年間、縁に順じ、日本国中花巡礼の旅に出て、ありのままの姿で、多くの花と人に出会い、「いのちの喜び」の集いを重ねていきたい…という願いを立てられた。心しづかな旅立ちの爽やかな鈴の音色である。

三つ目の音色は前川さんは寺を持たない得度者である。この巡礼が、自分達の忠（さだ）められ国土で終わらすことなく、仏縁のあって結ばれたカンボジア尼僧集団「慈愛の母計画」とのご協力になればと思いを深めておられる。（老人、孤児、学校施設等）

経済成長という物の豊かさを追求して、生きとし生けるものの助け合って生かされる大切な原則を忘れた今日、前川多恵子さんの母に導かれての「花巡礼」は現代社会の疲れ切った大地に、一陣の清風を与えてくださるものと感動しご無事を祈るばかりであります。

## 高松秀峰（浄土真宗本願寺派広島仏教学院院長）

前川さんは2007年より一年間、広島仏教学院で学ばれ、卒業なさいました。酸素吸入の身にもかかわらず、真摯に受講されていた姿は、大変印象深く残っております。在学中にも体調を崩された時期がありましたが、ここまでの活動をされるまでになられたこと、まことにあり難いことです。人生の厳しい辛酸の中で念仏の教えに出遇われた、豊かな仏法のご縁を結んでくださることでしょう。

